

藤沢市の 成り立ちと特徴

藤沢のまちは、中世には遊行寺の門前町として、江戸時代には、東海道五十三次の六番目の藤沢宿としてにぎわいを見せ、また江の島詣の足場として栄えてきました。

明治以降は、農村地帯を背後に控えた商業の中心地として、さらに鉄道の発展とともに、保養・観光・文化の地としても発展してきました。

1908年（明治41年）4月に町制を敷き、1940年（昭和15年）10月1日には市制を施行、そして1955年（昭和30年）までに近隣の町村が合併されて、現在の市域になりました。

1960年代に入ると、経済の高度成長を背景に北部を中心に数多くの工場が誘致され、工業都市としての性格を強めていく一方、1970年代には、各地に大型商業施設が進出し、湘南地域の商業の中心地として、また、本市の中部や西部、そして北部地域の開発が進むにつれて、多くの人々が移り住み、次々と新しい市街地が形成されてきました。

本市は、南に黒潮洗う相模湾をのぞみ、北には緑濃い相模台地の緩やかな丘陵が続く気候温暖、風光明媚な自然環境に恵まれたまちです。

市域の面積は、69.51km²で、東京からの距離は50キロ圏という位置にあり、JR東海道本線、小田急江ノ島線、江ノ島電鉄、湘南モノレール、相鉄いずみ野線、横浜市営地下鉄などの交通の便に恵まれています。

門前町、宿場町としてまちの第一歩を踏み出した本市は、首都圏近郊の観光・保養・住宅地として、また工業・商業都市として発展し、さらに図書館や体育館などの文化施設、大学などの高等教育施設の立地が進み、学園・文化都市としての性格も加わり、多種多様な機能を持つ都市となっています。

このように、本市は、古いまちと新しいまちが、それぞれの歴史と特性を持ちながら、ひとつの都市を形づくり、湘南の経済、文化の中心的都市として発展しています。

